

今年も
夏休みに実施します！

— 子どもたちがいきいきと活動する授業をめざして —

第3回夏の社会科授業づくり講座

“教材研究の時間がないので、ついつい教科書を読む授業になってしまう”、“学区のことを教材にしたいが、どうやって計画を立てたらよいかわからない”……

子どもたちがいきいきと活動する授業をつくるためにがんばっている先生方、学生のみなさん。ベテラン教師の体験を聞き若い教師の模擬授業を体験しながら、社会科の授業づくりを学びませんか。

- 8月22日(土) 午前9時(受け付け開始)～午後5時(解散)
- 千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室
* 千葉市中央区弁天 3-7-7 (JR千葉駅下車 徒歩8分) Tel.043-207-5811
- 参加費 300円(資料代)



第1部 9:30～12:00 講演 「子どもの『問い』に寄り添う授業」

石上徳千代さん(茨城県牛久市の小学校教師)

石上さんは、「子どものもつ疑問を授業の『問い』として位置づけ、授業をしていきたいと考えています。『問い』と地域の関係や『問い』と教科書の関係などについて話ができればと考えています」と語っています。講演では、牛久市という地域でどのような社会科の授業をつくってきたかを語っていただき、質問にも答えていただきます。

第2部 1:00～2:50 模擬授業① 小5 「なぜ山形の米は3年連続ブランド米に選ばれたのか」 佐藤嘉彦さん(千葉市の小学校教師)

学区にあるIさんの家の農作業見学をつづけています。Iさんの家の米作りと教科書に載っている山形県の米作りを比べ、日本の米作りについて考えていきます。

第3部 3:00～5:00 模擬授業② 小4 「千葉県の発展につくした人々 伊能忠敬」 三橋昌平さん(千葉市内の小学校教師)

今回は小単元、「文化の発展につくした人々」で伊能忠敬を取り上げます。伊能忠敬がなぜ日本地図を作ったのかを調べていくために1時間目の授業で学習問題づくりをします。古い地図と伊能図を比べ、違いを明らかにしていくことで出てくる疑問から学習問題をつくっていきます。